

新晃工業

「健康空調」シリーズに ファンコイルU追加

4月からリリース開始

新晃工業(社長 末永聡氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5)は、空気除菌システム「健康空調」シリーズに「健康空調力セット型ファンコイルユニット(FCU)」を追加、4月から販売開始(予定)すると発表した。FCU内部に超高出力の紫外線照射が可能なUVCランプを搭載し、

空気中の細菌・ウイルスを分解・除去することで、クリーンな空気を室内に供給する。UVCランプ搭載のエアハンドリングユニット(AHU)に続くもの

で、コロナ禍の収束見通しが困難な中、拡充強化された「健康空調」シリーズの今後の動向が注目されそうだ。

新晃工業が提案を進める「健康空調」をめぐっては、昨年9月7日、空調和・衛生工学会が発した「新型コロナウイルス感染症対策としての空調設備を中心とした設備の運用について(改訂二版)」の中で、紫外線照射(UVGI)の有効性が認められた。

象を公共施設など不特定多数が集まる大空間に広げ、提案を加速させた。この一環で空間除菌、東洋熱工業、NSFエンゲージメントら3社とともに食品添加物、殺菌料メーカーの三慶、Zepポールネットワークの協力を得て「Zep Handeda(Tokyo O)」(東京都大田区)で実証実験を実施し、大空間における有効性を確認した。

先に市場投入したUVCランプ搭載のAHUは需要先として病院を想定

射で細菌やウイルスの除去が可能で、200nm以下の波長をほとんど含まないため人体に悪影響のある2次汚染物質が発生する心配がない。

内部にUVCランプを組み込んでいるため、機外への紫外線漏洩の心配もなく、点検用パネルを開けるとUVCランプが切れる安全装置も装備している。既設品へのリプレイスに際して機器本体への大がかりな工事が不要。天井パネルの交換と簡単な接続工事だけで容易にUVCランプ搭載機器へグレードアップできる。

4月からリリース予定の健康空調力セット型FCUは、強力な紫外線照